

通期の見通し

平成 16 年度の販売電力量については、上半期の猛暑による冷房需要の増加や、前年度の暖冬の反動による暖房需要の増加が見込まれることに加え、緩やかな景気回復による産業用需要の増加が予想されることから、前年度比 3.9% 増の 2,868 億 kWh を見込んでおります。

売上高については、下半期において、料金引下げによる電気料収入の減少があるものの、販売電力量の増加などにより、5 兆 600 億円程度、当社単独では 4 兆 8,100 億円程度になるものと見込んでおります。

一方、費用面では、原子力プラントの点検・補修工事の完了などによる修繕費の増加、原油価格の上昇による負担増などが見込まれるものの、原子力発電電力量の増加に伴って燃料費が大幅に減少することに加え、設備投資の抑制などによる減価償却費の減少をはじめ、業務運営全般にわたる効率化・コストダウンを引き続き進めることにより、経常利益は連結で 3,600 億円程度、当社単独で 3,500 億円程度、当期純利益は連結で 1,980 億円程度、当社単独で 2,250 億円程度になるものと考えております。

< 連結 >

売上高	5 兆 600 億円程度
経常利益	3,600 億円程度
当期純利益	1,980 億円程度

< 単独 >

売上高	4 兆 8,100 億円程度
経常利益	3,500 億円程度
当期純利益	2,250 億円程度